

コミュニティ活動研究会 活動記録 (2016年度)	
活動名	高活ビズ起業塾『100歳まで働ける環境づくり・コミュニティづくり』 <u>BABA</u> ラボ見学 (主催：一般社団法人高齢者活躍支援協議会)
報告者氏名(期)	古根村正 (9期生)
参加者	講座参加者：11名(男性6名、女性5名) コミ研：坂田さん、小島さん、古根村(記録)、高活協：柳沼理事、水野さん、上田さん ※参加者は、装飾クリップを頂き、となりのカフェ“のら”で飲み物を頂戴しました。
参加日時	2016年7月16日(土) 13:30~16:00
講師	BABA ラボ代表 桑原 静さん http://www.city.saitama.jp/006/014/010/003/007/p037606.html
場所	第一部：BABA ラボ(埼京線中浦和駅より徒歩8分) http://baba-lab.net/ 第二部：ヘルシカフェ“のら”の奥のフリースペース http://healthy-cafe-nora.jimdo.com/
活動の経緯	<p>第一部：BABA ラボ紹介(13:30~14:30)</p> <p>2011年12月BABA ラボ創業、現在5年目、立上げからこれまでを紹介と見学。コミュニティサポートセンタの勤務から独立、母親を通してビジネスを見詰め、物づくりビジネスに決定し、さいたま市で創業。現事務所を安価で貸してくれる協力者にも出会う。最初は商品企画、人集め、ミシン技術力、周辺のうわさ等に対して苦労したが、新聞に載ったことを契機に一転、問合せ急増し、高齢者用“抱っこ布団(下記の写真参照)”を全国販売(インターネット)し成功(苦い経験も多い)、現在は高齢者用“哺乳瓶(芝工大と研究)”を開発、近日販売開始。BABA ラボ建屋内にはミシン室、談話室、キッズコーナー、キッチン、事務室、販売コーナーなど。高齢者は内職契約、ボランティア契約、アルバイト契約、パート契約などで現在50名、</p> <p>30代、40代のスタッフも増加、長期雇用者も多い。現在は、“編み物教室”など多様な事業も実施。それによる収入を得られる高齢者もあり。BABA ラボが雇用とコミュニティの場としても大きく貢献している。</p> <p>第二部：コミュニティビジネスとBABA ラボ(14:30~16:00)</p> <p>『資料：100歳まで働ける環境づくり・コミュニティづくり(20ページ)』にてコミュニティビジネスの説明。コミュニティビジネスとは地域の問題をビジネスの手法で解決することのこと。ボランティアでは限界や甘えが生じる。何をするのも“金”がかかるので、事業が大事。徳島県“いろどり”、東京“よんこま”の事例紹介。その後、BABA ラボの紹介。</p> <p>①手を動かしグッズを作る ②コラボして作る(企業大学と共同) ③地域の人に開かれた場を作る(ワークショップやイベントも開催)。地域にもたらす効果(①シニアや主婦など人材活用 ②多世代交流 ③一人暮らしシニア見守り)。継続のためには“ビジネス”と“想い”のバランスが重要(難しいが)。BABA ラボの今後、①全国にBABA ラボのネットワークを作成し、BABA ラボを各地に作成していきたい。“生きがいをもって働く”、“コミュニティがある”、②企業・行政・大学とのコラボにてサービス商品開発、③Webメディアの立上げを行い、『ばばたちの働き方・生き方を提案する会社』にしていきたい</p>

感想	<p>ソーシャルビジネスとして事業活動および世代を越えたコミュニティ活動が軌道に乗り始めるところまで持って来られたご苦勞に敬服いたします。桑原さんの説明を聞くにつけ、“苦勞しました”という言葉は出てくるものの、このビジネスにかける情熱の大きさと築いた人脈（協力者）の深さが、それを大きく上回るからこそ、乗り越えてこられたのだなと強く感じました。</p> <p>ただ、まだ軌道に乗り始めたばかり、これから成長の軌道に乗るには、商品販売が事業の基本であるだけに、継続性のある商品の企画力が今後のカギと思われます。</p> <p>高齢者が、“住む地域で働く場所があり”、“楽しいコミュニティがあり”、しかも“収入も得られる”という場を築くことは、相当な社会貢献です。これからも永続的な成長と繁栄と期待します。</p> <p>今日は、現地を見て、お話を聞いて、“本当に良かった”、“力をもらった”という気持ちになりました。</p>
----	---

2016.01.12 版